

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15 年 8 月 12 日

上場会社名 ツインバード工業(株)
(URL <http://www.twinbird.jp/>)
代 表 者 取締役社長 野水 重勝
問合せ責任者 経理部長 新嶋 昌泰

(コード番号：6897 東証第2部)
本社都道府県 新潟県
(TEL:(0256)-92-6111)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高（又はこれに相当する事項）の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期業績の概況（平成 15 年 3 月 26 日 ~ 平成 15 年 6 月 25 日）

(1) 売上高

(百万円未満切捨)

	売 上 高
平成 16 年 3 月期第 1 四半期	4,633
(参考)平成 15 年 3 月期	18,338

(注) 売上高は、当該四半期までの累計値である。前年同四半期の比較すべき数値の記載が困難であり、増減率は省略する。

[売上高に関する補足説明]

当社グループの第 1 四半期の売上高は、当初計画比 96.3%の 4,633 百万に留まりました。

依然として厳しい環境が続く中で、主力の家電製品販売においては、一昨年来高水準に推移したクリーナー関連が、通販ルートでの不振などによって売上高が鈍化し、ギフトルートにおいては、消費動向の低迷に加えて、一部流通段階での在庫調整の影響もあって、当初計画を下回りました。

そうした中であって、快適生活家電（空気清浄機、サーキュレーター等）の売上は計画および前年実績を上回り、また、連結子会社北日本物産(株)のフリーチョイス・カタログ販売も引続き順調に推移しております。

一方、当該四半期の収益面は、コストダウンによる商品利益率改善、効率改善に努めた結果、売上総利益率において計画比 1.5%、前年同期比 2%強の改善を見ており、売上高のマイナス分をカバーして、ほぼ計画通りの利益水準を確保しております。

第 2 四半期以降、マッサージャー等健康機器の新商品をはじめ、クリーナーの新機種投入を予定し、売上高回復に注力いたします。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年3月26日～平成16年3月25日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期 (当初予想)	9,000 (9,200)	50 (50)	20 (20)	2.21 (2.21)
通期 (当初予想)	19,300 (19,700)	350 (350)	190 (190)	21.04 (21.04)

[業績予想に関する定性的情報等]

当該四半期の売上高は当初の計画に対し4%程度減少したため、これを基に中間期および通期の予想売上高をそれぞれ修正いたします。

しかし、昨年来コストダウンに精力的に取り組んだことによる売上総利益率の改善、および経費節減の効果も反映して、収益は当初計画で予測した水準を維持しており、第2四半期以降の業績予想につきましても、収益面の予想修正はいたしません。

また、8月以降量産開始予定のFPSC（フリーピストンスターリングクーラー）は、販売先の商品企画との調整から、スケジュールが若干遅れていますが、下期からの本格稼働に向け準備を進めております。

（注）業績予想につきましては、現時点での情報により予測いたしましたが、為替相場の変動等の要因もあり、実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以上

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（個別）

平成 15 年 8 月 12 日

上場会社名 ツインバード工業(株)
(URL <http://www.twinbird.jp/>)
代 表 者 取締役社長 野水 重勝
問合せ責任者 経理部長 新嶋 昌泰

(コード番号：6897 東証第2部)
本社都道府県 新潟県
(TEL:(0256)-92-6111)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高（又はこれに相当する事項）の会計処理の方法の最近会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期業績の概況（平成 15 年 3 月 26 日 ~ 平成 15 年 6 月 25 日）

(1) 売上高

(百万円未満切捨)

	売 上 高
平成 16 年 3 月期第 1 四半期	3,168
(参考)平成 15 年 3 月期	13,322

(注) 売上高は、当該四半期までの累計値である。前年同四半期の比較すべき数値の記載が困難であり、増減率は省略する。

[売上高に関する補足説明]

当会計年度第 1 四半期の売上高は、3,168 百万円で、当初計画 3,295 百万円に対し 96.2%となりました。主力の家電部門では、売上の中核となってきた照明、調理、クリーナー関連の売上が前年比 90%程度と低調に推移する中で、空気洗浄機、サーキュレーター等の快適生活家電、液晶 TV、バスアメニティー等の売上は計画および前年比を上回っております。

ギフト販売は、掲載ジャンルを拡大したカタログ販売が市場の主流となる中で、当社製品の需要は減少する傾向にあります。

引続き厳しい環境が続くものと予測される中、当社では 6 月に商品・市場戦略の強化と海外生産を含めた生産効率改善を主たる目的として大幅な組織変更を実施しました。これによる改善効果の早期実現に努めると共に、新商品の戦略的開発投入と新しい事業展開の推進を図り、当初計画の実績確保に注力いたします。

(2) 当該四半期において当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

3. 平成16年3月期の個別業績予想(平成15年3月26日 ~ 平成16年3月25日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期 (当初予想)	6,200 (6,400)	40 (40)	60 (60)	6.64 (6.64)
通期 (当初予想)	13,600 (14,000)	160 (160)	100 (100)	11.07 (11.07)

[業績予想に関する定性的情報等]

当該四半期業績予想につきましては、第1四半期業績の概況(連結)の[業績予想に関する定性的情報等]に記載のとおりでありますので、個別での記載を省略しております。

以 上